

研究を知る × 人を知る

NIED Interview

防災科研で働く研究者をご紹介します。
研究のことから趣味にいたるまでお聞きしました。



— 研究について教えてください。

私の専門は耐震工学です。防災科研では建物の骨格部分にあたる躯体だけでなく、設備機器や家具、天井材や外壁などといった非構造部材も含めた建物全体の耐震性能評価法を研究しています。私は、2022年度に行われる10層鉄骨オフィス実験の担当をしていて、実際の建物に設備機器や非構造部材を敷設し、地震後も継続的に使用できるかを評価していきたいと思っています。

— なんだか難しそうですね。

なぜそのような評価方法が必要かというと、実際に地震が起こった後、いったんは屋外や避難所に逃げたとしても、家やオフィスが使える状態なのか分からないと、もとの場所には戻れませんよね。だから、地震の後も、引き続きその建物が使えるのかを判断するための方法が必要なんです。

— 防災科研に来たきっかけは？

名古屋大学4年生のとき、建物が

地震によってどのような影響を受けるのかに興味があり長江拓也先生の研究室に入りました。そこで、実大三次元震動破壊実験施設（Eーディフェンス）を使った実験に参加したのが、防災科研との出会いです。実は、長江先生はもともと防災科研の研究者で、首都圏レジリエンス研究プロジェクトに参加していました。そのご縁で私も、3階建ての木造住宅を使った実験のデータ分析を担当しました。学生でありながら、国家プロジェクトに参加できたのはとても貴重な経験でした。

大学院を卒業後、大手建設会社で施工管理の仕事をしていました。施工管理の仕事は、品質・コスト・工程・安全・環境面に力を入れて建設工事を管理する仕事です。多くの現場を経験して、建物だけでなく、基礎から仕上げまでのすべての建設過程を学ぶことができました。

私が防災科研に入所したのは、学生時代の首都圏レジリエンス研究プロ

ジェクトを通してできたつながりのおかげです。プロジェクトが縁をつないだものなのだと実感しています。やはり何事も人のつながりが大切だと思っています。

— 今後やりたいことはなんですか？

海外で主流な建物の構造であるコアウォールや、比較的安価で免震効果が得られる新しい基礎滑り構法の開発です。基礎滑り構法とは、建物とその基礎を分離し、地震の際に建物全体を滑らせるようにして免震効果が得られるものです。まだ、分かっていないことも多く、電子顕微鏡で基礎滑りの土台の鋳鉄の形状変化を見たりしてみたいですね。

また、Eーディフェンスはその名の通り、実物大の建物を試験体として振動台に載せて実験するわけですから、実験棟の中で建設作業を行うこともあります。試験体の現場監理担当として、建設での現場経験を実験に活かしていきたいと考えています。



休日のひと時。先輩方と。

西さんって
こんな人

地震減災実験研究部門 特別技術員

西 峻汰 にしりょうた

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻修士課程修了。清水建設株式会社を経て、2022年4月より現職。専門は耐震工学。趣味はゴルフ・バレーボール・柔道。防災科研に入所して、先輩方よりゴルフのご指導もいただきつつ、ゴルフに没頭中。